

平成 19 年度 グループ・プロジェクト研究計画書

(フリガナ) 氏 名	(イシイ トモコ) 石井 倫子	研究科 センター等	知識科学研究科
		講座名	複雑系解析論講座
研究課題	ケータイ・リテラシー運動参加者に関する意識調査		
研究目的	本研究の目的は、「行政」という権威の下でケータイ・リテラシーを推進または賛成している人々が、実際、個人ではどのようにその政策について認知しているかを明らかにするものである。		
研究方法	能美市・野々市町区内の携帯リテラシー教育・研究に携わる人々の意識調査。 能美市・野々市町区内の携帯リテラシー運動参加者及び、調査研究関係者を対象としたインタビュー、アンケート、また文献レビュー、等。		
研究の特色・ 意義	市民一人一人が知識を使う能力をもってほしいという「リテラシー」運動に関して、国でも珍しく「ケータイ・リテラシー教育」を行っている能美市・野々市町を対象にして、参加者の意識調査を行うものである。また、本研究は、地域と密着した事例研究としての特色を持っている。 参加者及び研究関係者の意識調査を行うことで、現段階での共有認識・問題点を明らかにし、今後の能美市・野々市町に携帯電話対策に対する何らかの示唆をもたらすことが出来るのではないかと考える。		
期待される 成果	ただ一概に携帯を持たせないというのではなく、携帯電話を持たせることの利点、現在能美市・野々市町で行われているリテラシー教育の有効性、どのような改善点があるかを論じ得ることができるものである。また、知識を生み出すものと使うものという役割分担が通用しなくなっている現在では、「リテラシー」教育そのものについて考えるようになるための提言は、市民一人一人が、現代科学が自分たちの社会のあり方や生活にどのように影響を与え、どのようにそれを左右するのかを考える上で重要となってくるものとして意義のあるものである。		